

文化財関係研修の実施

期になる傾向があるように思われます。この研修は未だ特殊な分野であり、講師を求めるとなると特定の人物に依頼するほかないという状況です。そのため、日程の調整がむずかしく、概説から始めて各論を順に展開しにくい状況となっています。本年もこの点について研修生から不満の声があがりました。この不満は十分に予測できたので、研修の流れとGIS分野の関係について研修当初に説明をおこなったものの、理解が及ばないむきがあったようです。実習をおこなってほしいという要求も、機器・ソフトのレンタル費用や電源設備を考えると実現が困難な課題でもあります。

さて、そういった問題点はあるものの、最新の計測技術や標準化動向とともに、具体的な研究への応用例を学ぶことができ、多くの研修生が充実した研修期間を過ごしたことも事実です。帰郷した彼らが、行政での導入が急速に進展しているGISを、これからの文化財行政・研究に正しく活用されることを願っています。

発掘技術者研修「遺跡地図情報課程」

今年度の「遺跡地図情報課程」は12月18日から12月21日におこないました。短期の研修は、研修計画作成の時に、長期の研修の隙間に割り当てられるため、どうしても研修生や講師が集まりにくい時